

(前ページから続く)  
カレッジに入学した甲斐があった。出来れば卒業後もお世話になりたいと思っている毎日です。

### 小学校のお手伝い

上川 道子(食文・10期)



グループ“わ”から平成18年4月から和田岬小学校「特殊学校」へ毎週金曜日午前中お手伝いに行っ

ています。私は教員免許を持っていませんので、当初どんなことをするのか心配していましたが、連絡を受け「特殊学級ひまわりタンポポ教室」にてお世話することになりました。児童は1年生から6年生まで男女5人が同じ教室で男女2人の先生の指導で勉強しています。

私は常に大きな声で明るく生徒さんに声をかけ、一日も早く親しい関係が作れるよう努力し、例えば国語の時間は日記を書くことから始まりなかなか書けない児童には側に寄り添い朝食はなにを食べたのと問いかけ、書かすことの動機付け等々お手伝いをしています。当初障害があるから可哀想と思っていましたが、先生は健常者と同じ気持ちで指導されている姿を見、随分勉強になりました。先生のご苦勞を目の当たりで拝見し大変な職業に吃驚し尊敬しました。

今年3月卒業式に参列し、卒業生一人一人希望を述べ、特殊学級の児童さんも立派に述べました。卒業生全員がボランティアの上川さん有難うとお礼の言葉を頂き涙が出てきました。中学生になって頑張ると校庭で握手をして見送りました。

これからも児童さんと嬉しい出会いがあり、また悲しい別れがあり、感動と元気を頂きながら金曜日のお手伝いを楽しみにしている今日この頃です。

### 7月4日 長坂小学校 『日本の伝統文化』講座

#### 大正琴を小学生とともに 福祉11-文 前田仁子



7月4日は久しぶりに心から感動した一日でした。

子ども学習支援活動で長坂小学校6年生に大正琴の指導のお手伝いをしました。私には初めての経験でしたので当初は不安でしたが音の出し方、両手の動かし方等、一通り説明すると「僕から」「私から」と積極的に、私たちの説明を理解し一生懸命楽譜と睨めっこしながら、左手で鍵盤を押さえ、右手で弦を弾くという動作に初めは少し戸惑った様子でしたが、今はピアノや弦楽器などに触れる機会も多く児童達の音感の素晴らしさに指導にも熱が入りました。

8台の大正琴で8グループを作り、6名から7名くらいで課題曲2曲を練習して3校時目の発表演奏ではハイハイと、先を争って前に出て8人リズム合わせて引いてくれました。子どもたちの音感のよさ、理解度の速さ、そして積極性には感動と驚きで元気を頂きました。

6年生ともなれば、この日の授業は記憶として少しは残るでしょう。何時かこの日手に触れた大正琴をひと時でも思い出していただければ、うれしいなあと思った一日でした。



### 詩吟講座に参加して

美工12-文 加来米子



文化講座授業の一環として、詩吟講座を小畑章、加来米子2名で参加させていただきました。

今年は3校時、4校時の90分を担当することになりました。全体5クラスの前で紹介されました。新しいことに挑戦しようという子どもが現れ、児童のきらきら輝く目を見て勇気を頂きました。詩吟グループの40人と教室に入り講座の始まりです。

「詩吟とは？」との問いに知らない人が殆どです。まず基本練習です。

ストレスを溜めないためにお腹から大きな声を出すことから始めました。一斉にはじめ15秒続くかな？

「あ———」最初は続かなかった人も1回目、2回目、3回目と発声を練習しているうちに大きな声も出てくるのを感じ嬉しい気持ちになりました。発声がうまく出来たら基本練習終了です。次は実技練習です。

漢詩は小学校では習っていないと聞いていましたので、今年は小学校教材として習ったことのある「俳句」と「短歌」を教材にしました。

日本で一番短い詩の俳句「春景」の吟詠練習です。プリントの楽譜を基に一節ずつ2~3回繰り返し練習すると、キチンと音もとれてうまく吟じられるのです。音感がいいですね。

「菜の花や 月は東に 日は西に」最後まで音程をとりながらの練習もでき、折角練習したので「おさらいに自分でやってみたい人居ますか？」の問いにやってくれるかなの心配も少しありましたが、想像以上に多くの児童が手を挙げてくれました。時間の関係で一人づつはできず合吟して貰い

(次のページに続く)